

「希望 (のぞみ)」の学習を通して、様々な人々とともに、積極的に、粘り強く課題解決に取り組む中で、社会において有為な人となるべく自己の向上をはかる子どもの育成を目指します！

「希望 (のぞみ) 視点の保育」と「希望 (のぞみ)」の授業

今回は、幼小中 12 年間の入口である入門期 (年少児・年中児) の活動と小中接続期 (5・6・7 年生) の授業を紹介します。

「希望 (のぞみ)」入門期部会

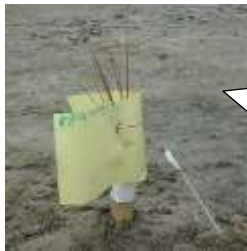
(年少・年中組) 『むちゅうになって・かかわいながら』



水はこれくらいかなあ

はい、よしよし！

ジュースを
ください！



「じゅーす
やさんやっ
てます」の
看板

年中児は年長児の「固い泡」にあこがれ「自分たちもやってみよう！」「もっとふわふわな泡や固い泡をつくるには？」といろいろ試しながらやっています。年少児は年中児のジュースやさんにかかわり、今度は年少児が「おねえちゃんたちみたいなのをつくりたい！」と真似をしてやっています。試行錯誤しながらの今の経験が一年後やその後の経験につながることを願っています。

「希望 (のぞみ)」小中接続期部会

(5・6・7年) 『自分たちでつくる行事！』

5・6年合同授業の様子



6年生にとって、修学旅行の中で最も楽しみであり大変な活動は、京都での“班別自主研修”。旅行会社の方と交渉しながら自分たちで全て計画を立て、実践します。修学旅行を既に経験した7年生さんから様々な助言をもらい、計画を練り上げた6年生。そして実践後には、学びをパワーポイントにまとめて、5年生に伝えました。共通の課題に対して、異学年の子どもたちが共に語り合い、考え合うことを通して、学習がさらに深まっています。

5・6年合同授業の様子



困った時もみんなで知恵を出し合って乗り切り、絆が深まりました！

6年生さんのプレゼンは分かりやすいな。私たちの旅も楽しみだな。

「研究開発だより」(カラー版)をHPに掲載していますので、併せてご覧ください。

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/fmihara/kenkyu/>